後から来る者たちへのメッセージ

「世の中には自分の仕事にただ漫然と、何の意義も価値も感じずにやっている人が何と多いことでしょうか。そうではなしに、他人から見たらどんな些細な、取るに足らないことであっても、自分がやるからにはそこにしっかり意義と価値を感じ取ってやっていただきたいのです」　致知１１月号の鍵山秀三郎氏の言葉です。

脳天を、大きなハンマーで、ガツンと殴られたような衝撃と感動を受けました。
その“特別講話”の演題が「後から来る者たちへのメッセージ」となっているのも、決して偶然とは思えません。

鍵山秀三郎氏８２歳。８２年間の全人生を懸けて、気付き・感じ・体験し・学んでこられたことを、自らの哲学・信念・知恵にまで高めてこられました。
それを、龍が玉を吐くように、珠玉の９ページにまとめられたものです。
人生の達人が８２年間を、この９ページに凝縮された文章ならば、１ページに９年間の人生が詰まっているのです。徒や疎かには出来ません。
９回、読み返し、色鉛筆で線を引き、じっくりと考え、一人唸りました。

会計人として、自らの仕事や、所員に対する仕事観は、毎月毎月説いていますが、果たして、お客様に「自分の仕事」に「意義と価値を感じ」て、もらっているのか！熱く・熱く取り組んでもらっているのか！
「些細な、取るに足らないことであっても」全力投球・完全燃焼してもらっているのか！
「自分がやるからには」命を懸けて取り組んでもらっているのか！
一つ一つが深い反省であり、大きな氣付きであり、励ましであります。

私は年が明ければ６４歳になります。人生の大半を、会計人として、生かしていただき、そろそろ、お返しをすべき年齢に達しました。
人間として価値基準・判断基準を、損得・有利不利・儲かる儲からないから、自分の利害を超えて、日本がより良くなるのかどうか、次世代に申し送りすべきことは何か、鍵山秀三郎氏から、大きなヒントをいただきました。

社長、**一日一日をどういう心構えで過ごしたか、自らの人生は、その積み重ねのとおりに創り上げられていくこと**を自覚して、人生を切り開いて参りましょう。
平成２７年も、あと僅かになりました。日常の些細なことにも、心をこめて取り組んで参りましょう。

今月のポイント

仕事に意義と価値を感じて

一日一日を励むこと。